八戸工業高等専門学校			開講年度	平成30年度 (2	2018年度)	授業和		II B(020	[ケーショ] 7)		
科目基础			1	l		1					
科目番号		0245			科目区分	— <u>f</u>	一般 / 必修				
授業形態		講義				数学	-				
開設学科		産業システ	産業システム工学科電気情報工学コース			4					
開設期		後期				1					
教科書/教		(NHKブッ	クス) ④『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳)『理科系の作文技術』(中公新書)3 『論文の教室』 長					
担当教員		戸田山 みと	り,齋 麻子,海野	かおり							
到達目 コミュニ 小論文・	ケーション	能力を高める。 書く力を身につ	(特にプレゼンテ ける。	ーション力を身にて	つける)						
ルーブリ	リック							T			
			理想的な到達し						到達レベルの目安		
平価項目	1			ョン能力を高める できる。 					ミュニケーション能力を高めるとができない。		
评価項目	2		つけることが主		つけることができ	ることができる。 つける			とができない		
評価項目			小論文・研究論 つけることが主	小論文・研究論文 つけることができ				研究論文を記 とができない	書く力を身に ハ。		
		頁目との関係 (大学 DDG B			0.77/0						
DP1 豊/ 教育方》		D涵養 DP6 異	文化理解とコミニ	ュニケーション能力	の習得						
概要	<u> </u>	グローバル が社会に出 報を収集整	】冬学期週2時間 化が叫ばれる今E てから必要になる 理し、正確に伝え 聴衆の前でプレセ	ける。 日、多様な文化を理 るコミュニケーショ そる力を養う。3年/ ゴンテーションを行	解し、他者とコミニン能力について、基 次よりも進路や研究 い、限られた時間で	1二ケーシ 基礎的な理 論文などで ご人をひき	ョンを と 解を広い ごの文章 つける力	こる必要が が、自分の 表現を意識 」を養う。	ある。特に ^理 考えを論理的 哉し、より実	里科系の学生 りに述べ、情 践的な力を身	
四半~半	め方・方法	実際に1つの	Dテーマを個々に	-=0.001 =0.45 + 30 -	キャバテいく 哲学	の中で構造	おか論女	に関する基	ま木車頂を押	解するとと#	
又未り進	0)/) /)/Д	に、何度か	添削を行い、より	.設定し、論义を書る Oよい論文を完成さ	さめいていて。投業せる。また、自己を	PRできる	プレゼ	ンテーショ	ンを行う。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
	0373 7374	に、何度かき春学期のうき筆および論き	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための資	設定し、論义を書る りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた	せる。また、自己を 学期開始時にテート けないため、自学自	EPRできる アを決定し 目習を必要	プレゼン て受講す とする。	ンテーショ すること。 また、就	ンを行う。		
注意点 授業計[に、何度か 春学期のう 筆および論 PRするため	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための資 のプレゼンテー:)よい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設	せる。また、自己を学期開始時にテーマ 学期開始時にテーマけないため、自学自ないため、積極的な取り	EPRできる 7を決定し 1習を必要 組みが必要	プレゼン て受講す とする。 である。	ンテーショ すること。 また、就	ンを行う。		
注意点		に、何度が 春学期のう 筆および論 PRするため	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための資 のプレゼンテー: 業内容	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた	せる。また、自己を学期開始時にテーマ 学期開始時にテーマけないため、自学自ないため、積極的な取り	EPRできる アを決定し 目習を必要	プレゼン て受講す とする。 である。	ンテーショ すること。 また、就	ンを行う。		
注意点		に、何度が 春学期のう 筆および論 PRするため 週 授 1週	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための資 のプレゼンテー: 業内容 イダンス・テーマ 後の論文執筆に	のよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自会の、積極的な取り	EPRできる 7を決定し 1習を必要 組みが必要	プレゼン て受講する。 である。	ンテーショ すること。: また、就	ンを行う。		
注意点		に、何度が 春学期のう 筆および論 PRするため 週 授 ブラ	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための のプレゼンテー: 業内容 イダンス・テーマ 後の論文執筆にる	○よい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自会の、積極的な取りが	EPRできる アを決定し 日習を必要 組みが必要 週ごとの至	プレゼン て受講する。 である。 「である。 」達目標 ・把握で	ンテーショ すること。: また、就	ンを行う。		
注意点		に、何度が 春学期のう 筆および論。 PRするため 週 授 ガ今 こ週 テ今	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための のプレゼンテー: 業内容 イダンス・テーマ 後の論文執筆にる	のよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自治のでは、 情極的な取り	EPRできる アを決定し 国習を必要 周ごとの 受業概要を 倫文のテー	プレゼ: て受講するとである。 達目標 上押握で: マを決	ンテーショ 「ること。 また、就 きる 定できる 文献の挙げ	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要	中には論文執 要な自己を	
注意点		に、何度が 春学期のう 筆および論 PRするため 週 短 1週 グラテー 3週 引	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための のプレゼンテー: 業内容 イダンス・テーマ 後の論文 執筆にる 一マ決定 後の論文執筆にる	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 が文献について	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自治の、積極的な取りが	EPRできる アを決定し 国習を必要 周ごとの 受業概要を 倫文のテー	プレゼ: て受講する。 「達目標 世 握 で : 参考!	ンテーショ 「ること。 就 また、就 きる 定できる 文献の挙げ 文献の引用	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要	中には論文執 要な自己を	
注意点	画	に、何度が 春学期のう 筆および論 PRするため 週 1週 夕 2週 ラ 3週 引 4週 引	添削を行い、よりでは、またでは提案した論が文執筆のためのがでしてシテージを対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 が文献について	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自治をでいため、自学自治の、積極的な取りが	EPRできるできるできるできるできるできるできる。 でででは、 関づされている。 関が必要を は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	プレゼラ できます は 世界 できます かっこう は 世界 できまる る かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう	ンテーショ 「ること。 就 また、就 きる 定できる 文献の挙げ 文献の引用	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 	中には論文執 要な自己を	
注意点	画	に、何度が 春学期のう 筆および論 PRするため 週 1週	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための資 のプレゼンテー: 業内容 イダンス・テーラ 後の論文執筆にな 一マ決定 後の論文執筆にな 用について/参考	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 が文献について	せる。また、自己を 学期開始時にテーマ けないため、自学自 め、積極的な取り	EPRできる PRでまる PRでする PRでまる PRでする PRでする PRでする PRでする PRでする	プレゼラ できます はまま できます かいがい かいしょう かいがい かい かいがい かい かいがい かいがい かいがい かい かいがい かい かいがい かい かいがい かい かいがい かい かいがい かい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かい かいがい かい かいがい かい かいかい かい	ンテーショ すること。就 きる 定で 献の 学け 文献 の る 書き方が 把	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 ままと表す。 な実践し、/	中には論文執 要な自己を きる ルールを守っ	
注意点	画	に、何度が 春学期の言論が 事まするため 週 1週 グラテラ 引 3週 引 4週 引 5週 アア	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のための資 のプレゼンテー 業内容 イ後の論文で、 一後の記文、執筆にな 一後の論文文、執筆にな 一後の記文、 一後の記文、 一後の記文、 一後の記文、 一後の記文、 一後でで、 一次で、 一次で、 一次で、 一次で、 一次で、 一次で、 一次で、 一	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 が文献について	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自治を取りが	EPRできる PRで定定をきる PRで決定が必 BU BU BU BU BU BU BU BU BU BU	プレビでである。	ンテーショ すること。就 きる 定で 献の 学け 文献 の る 書き方が 把	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 まままし、/ 記述する	中には論文執 要な自己を きる ルールを守っ	
主意点	画	に、何度が 春学期ので論か 第およるため 週 1週 グラ テラ 引 3週 引 4週 引 5週 ア 6週 ア 7週 論	添削を行い、よりである。	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 が文献について	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自治を取りが	EPRできる PRで実 PRで実 PRで実 PRで実 PRで実 PRで実 BU PRでま PRで PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRです PRでま PRです PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRです PRです PRです PRです PRで PRです PRです PRで PRで PRです PRです PRです PRです PRです PRです	プロとで	ンテーショ すること。就 きる 定で 献の 挙げ 文献 の 引用 できき 方が 把 ストラクト	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 おを実践し、/ と握できる 本を記述する	中には論文執 要な自己を きる ルールを守っ	
主意点	画	に、何度が 春学期の言論 PRするため 週 担週 2週 3週 引 3週 引 5週 ア 6週 ア 7週 論 8週 論	添削を行い、よりである。 が関連を行い、よりである。 があったがのができます。 大きには、またができます。 一本のでは、またができます。 一本のでは、またができます。 一本のでは、またができます。 一本のでは、またができます。 一本のでは、またができます。 一本のでは、またができます。 一本のでは、またができます。 「フェーストラクト」では、またができます。 フェーストラクト。 「フェース・フェース・フェース・フェース・フェース・フェース・ファース・ファース・ファース・ファース・ファース・ファース・ファース・ファ	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 が文献について	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学的は、情極的な取りが	EPRできる PRで実 PRで実 PRで実 PRで実 PRで実 PRで実 BU PRでま PRで PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRです PRでま PRです PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRでま PRです PRです PRです PRです PRで PRです PRです PRで PRで PRです PRです PRです PRです PRです PRです	プロとで 川達 把 マ 参 たと トア 指 10 で 10	ンテーショ すること、就 すること、就 する き で 献 のる が が のる が が でき き 方 が クト き で ま て 執 でき さ ス て 執 でき さ な でき か か か でき か か か か か か か か か か か か か か	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 おを実践し、/ と握できる 本を記述する	中には論文執 要な自己を きる ルールを守っ	
主意点	画	に、何度が 春学期の可論が 事業がよるため 週 1週 2週 3週 引 3 引 3 引 3 引 3 引 5 週 ア 7 週 論 3 調 3 調 3 引 3 引 5 週 6 週 ア 7 週 3 調 3 調 3 記 3 記 3 記 3 記 3 記 3 記 3 記 3 記	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のためのが ボタンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	りよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 ちたっての諸注意 な対について な文献について	世る。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自ないため、自学自ない、積極的な取りを	でPRできるします。 で定とが必めのでは、 のののに述えの完定ができるします。 のののに述えの完定ができるでででででででででででででできるがいる。 のののでででででででできるできる。 のののででできるできるできる。 ののででできるできる。 のでででできるできる。 のでででできるできる。 ののでできるできる。 ののでできるできるできる。 ののででは、 ののでででできるできる。 ののででできるできる。 ののでででできるできる。 ののででできるできるできる。 ののでできるできるできる。 ののでできるできるできる。 ののでできるできるできる。 ののでできるできるできる。 ののでできるできるできる。 ののでできるできるできる。 ののでできるできるできるできる。 ののでできるできるできるできる。 ののでできるできるできるできるできる。 ののでできるできるできるできるできるできるできる。 ののでできるできるできるできるできるできるできる。 ののでできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 ののでできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる	プロとで 川達 把 マ 、	ンテーショ すること、就 すること、就 する き で 献 のる が が のる が が でき き 方 が クト き で ま て 執 でき さ ス て 執 でき さ な でき か か か でき か か か か か か か か か か か か か か	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 おを実践し、/ と握できる 本を記述する	中には論文執 要な自己を きる ルールを守っ	
主意点 受業計[画	に、何度が 育学期ので論か 事業があるため 週 1週 2週 3週 引 3 引 4週 5 週 7 月 3 引 5 週 8 週 論 論 論 論 1 0 週 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	添削を行い、より ちに提案した論文 文執筆のためのが ボタンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	のよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 (文献について (文献について (ズター作成く準備 パスター作成く準備	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自ないため、自学自ないため、有極的な取りをある。	でPRで実践のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	プーでとで 一達 把 マ 、 しこうの 目目 に で で で で 一	ンテーショ。 テっこた、	ンを行う。 また、授業中 職進学に必要 おを実践し、/ と握できる 本を記述する	Pには論文執 要な自己を	
主意点	画	に、何度が 育学期ので論か 事業があったが 週 1週 2週 3週 引 3 引 4週 5 週 7 週 論 論 論 論 論 1 0 週 1 1 月 1 1 月 1 1 月 1 1 月 1 1 1 月 1 1 1 月 1 1 1 1 月 1	添削を行い、より を行い、より を行い、より を行い、より を行い、より を行い、より を対した に対した を対した がった。 では、また。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	のよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 で文献について ポスター作成く準備 ポスター作成く準備	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学的は、情極的な取りが	ででで、では、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	プーとで 一達 把 マース・10 こう の 目目 で で に でに で 対 うてん 目目 に で でに で まるる るいる きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう しょう きょう きょう きょう きょう しょう きょう きょう きょう しょう きょう きょう しょう きょう しょう きょう しょう しょう きょう しょう しょう しょう しょう しょう はい かいしょう はい かいしょう はい	ンテーショ () まで 対	ンを行う。 また、授業中 ボ進学に必要 おを実践し、/ 型握できる。 を記述する。 そる。	中には論文執 要な自己を きる ルールを守っ	
主意点	画 3rdQ	に、何度が 春学期ので論か 事業がよるため 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 論論	添削を行い、より ちには異ない。 大きには異ない。 大きには、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが	のよい論文を完成さ 文課題について、冬 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 で文献について ポスター作成く準備 ポスター作成く準備	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、自学自ないため、自学自ないため、積極的な取りをある。	ででで、では、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	プーでとで 一達 把 マー・ しこう の 目目 で で にでにで で 一	ンテス さま こう で 献献さき ト 執執 ニューショ・説 かり で 書 ス て て て て て て て て て て て て て て て て て て	ンを行う。 また、授業中	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる	
主意点	画 3rdQ	に、何度が 春学期ので論か 事業がよるため 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 自	添削を行い、よりで ちに 大きに	つよい論文を完成さ 文課題について、を 資料読解の機会は設 ションを実施するた マ決定 あたっての諸注意 あたっての諸注意 な献について で文献について ボスター作成く準備 ボスター作成 ボスター作成	せる。また、自己を 学期開始時にテーマ けないため、自学自 よめ、積極的な取りを : : :	でRTR ATT ATT ATT ATT ATT ATT ATT ATT ATT	プてとで	ンテース マーク	ンを行う。 また、授業中 ボ方を把握で 関を実践し、 を記述する を記述する を記述する	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる	
主意点	画 3rdQ	に、何度が 春学期のび論か 野Rするため 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 13週 13週 13週 15週 6月 6月 6月 7月 6月 7月 6月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 6月 7月 7月 7月 7月 7月 7月 7月 7月 7月 7	添削を行い、よりで ちに執筆のという。 では、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいで、またいで、またいで、またいで、またいで、またいで、またいで、またいで	つよい論文を完成さ 之課題について、 を実施するた マ決定の諸注意 あたっての諸注意 あたっての諸注意 な献について で文献について ポスター作成く準備 ポスター作成 ポスター作成 ポスター作成 ポスター作成 まプレゼンテーショ 表プレゼンテーショ 表プレゼンテーショ 表会(補講日に4クラ	せる。また、自己を 学期開始時にテーマ けないため、自学自 よめ、積極的な取りを ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ででで、では、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	プロとで 一	ンテった。	ンを行う。 また、授業で また、授業で である。 を記述する。 を記述する。 とPRできる。 マーを作成で マーを作成で	pには論文執 要な自己を かしいを守っ ことができる きる	
主意点 受業計[画 3rdQ 4thQ	に、何度がう論が 事業があるため 週 1週 2週 3週 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3	添削を行い、よれい。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 では、アン・スをできます。 マン・スをできまする。 マン・スをできまする。 マン・スをできまする。 マン・スをできまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	つよい論文を完成さ 文課題について、 を で を で を を を を を を を を を を を を を	せる。また、自己を 学期開始時にテーマ けないため、自学自 よめ、積極的な取りを ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	でででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	プロとで 一達 把 マ 、 しこうの目目目ではないではなるない。 一定 大きなのでは、 こうのの目目になっています。 またいがのブししる るるいるいた たたい	ンテった さまで 文文で書入 て て で めののる がり	ンを行う。 また、行うを把握で また、学に必要 を実践し、 をを記述する。 をPRできる ターを作成で ターを作成で ターを作成で マーなポスタ	きる ルールを守っ ことができる きる 一発表ができ	
主意点 受 業 計[受 期	画 3rdQ 4thQ	に、「何度から論が を学期ので語が で学期ので語が で学期ので語が で学期ので語が ででまするため 週 1週 2週 3週 引 引 7 7 7 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	添削を行いて、 を行いした論な。 だは、 を行いした。 では、 を行いした。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	フよい論文を完成さ 文課題について、 文課題にの機会するた マ決定の諸注意 あたっての諸注意 が文献について で文献について ポスター作成 〈準備 ポスター作成 ポスター作成 ポスター作成 ポスター作成 ポスター作成 まプレゼンテーショ 表会(補講日に4クラ 表会(補講日に4クラ	世る。また、自己を学期開始時にテーマけないため、積極的な取りがいため、積極的な取りがいため、積極的な取りがある。	でででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	プロとで 一達 把 マ 、 しこうの目目目ではないではなるない。 一定 大きなのでは、 こうのの目目になっています。 またいがのブししる るるいるいた たたい	ンテった さまで 文文で書入 て て で めののる がり	ンを行う。 また、デランを行う。 また、学に必要 である。 を記述する。 を含めてできる。 とPRできる。 ターを作成で マーなポスター こうなポスター	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表できる 一発表できる	
主意点 授 業 計1	画 3rdQ 4thQ	に、何度がう論が 事業があるため 週 1週 2週 3週 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3 引 3	添削を行い、よれい。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 素ができます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 一後のマン・スをできます。 では、アン・スをできます。 マン・スをできまする。 マン・スをできまする。 マン・スをできまする。 マン・スをできまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	フよい論文を完成さ 文課題についてを言うである。 文課題にのの機会するためで表演を実施するためでは、 マ決定であたっての諸注意でする。 を対していてでは、では、このいてでは、では、このいてでは、では、このいてでは、では、このいてでは、では、このいでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	世る。また、自己を学期開始時にテーマけないため、積極的な取りがいため、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	でででは、「おおおい」では、「おおい」では、「おおい」では、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない	プロとで 一達 把 マ 、	シラス 文文で書入 てて て の めら いっと、	ンを行う。 また、行うを把握で また、学に必要 を実践し、 をを記述する。 をPRできる ターを作成で ターを作成で ターを作成で マーなポスタ	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表ができる	
主意点 授 業 計1	画 3rdQ 4thQ	に、「何度から論が を学期ので語が で学期ので語が で学期ので語が で学期ので語が ででまするため 週 1週 2週 3週 引 引 7 7 7 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	添削を行いて、 を行いした論な。 だは、 を行いした。 では、 を行いした。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	フよい論文を完成される。 大課題にから表示では、 を選挙を実施するためでは、 大課題にのの機能するためでは、 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 マ決定である。 でする。 マ決定である。 でする。 マ決定である。 マ決定である。 でする。 マ決定での。 でする。 マ決ででの。 でする。 マスター作成。 ペスター作成。 ペスター作成。 ペスター作成。 ペスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 ポスター作成。 まる。 、では、 、 、では、 、では、 、では、 、では、 、では、 、では、 、では、 、では、 、では、 、	せる。また、自己を学期開始時にテーマけないため、積極的な取りがは、	でででは、「おおおい」では、「おおい」では、「おおい」では、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない	プロとで 一達 把 マ 、 しこうの 目目 に でにでにでに を を と トア 指指 きききおきおす す 持 ちらって いっぱい かん たん たんり かん	シア・ステー き 定 文文で書スてて て て めめら らっと、	ンを行う。 また、デランを行う。 また、学に必要 である。 を記述する。 を含めてできる。 とPRできる。 ターを作成で マーなポスター こうなポスター	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表ができる	
主意点 受 業 計[受 期	画 3rdQ 4thQ	に、学まする 原 の で	添削を行いて、 を行いした論な。 だは、 を行いした。 では、 を行いした。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	のよい論文を記していた。 文課題にからまた。 文課題にのの機能である。 文字をしていていての。 で文献について で文献について で文献について ボスター作成。 ボスター作成。 ボスター作成。 ボスター作成。 ボスター作成。 ボスター作成。 ボスター作成。 ボスター作成。 ボスターにはクラーでは、 ボスターでは、 ボーションを 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	世る。また、自己を学期開始時にテーマけないため、積極的な取りがいため、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	ででで、「大学学院」では、「大学学院、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院」では、「大学学院、「大学学院」では、「大学学院、「大学学院、「大学学院」では、「大学学院、「大学学院」では、「大学学院、「大学、「大学学、「大学	プロとで 一達 把一マ 、 しこりの目目にでいてにでにする。 を こしてい 受すあ 目 握 を 参たとトア指指きききおきおるる持 持と てで講るる。 標 で一決 考いがのブししるるるいるいたたた に えっそ	ンけるま さ 文文で書スてて て て めめせ せ 、 のテこた る で 献献ききト執執 、 、ののららら 要 論ショ。就 ののららら 要 論 拠りまれれれれる が 拠りまれたれる が 拠りまれたい かんしょう しょうしょう かんしょう かんしょう しょうしょう しょうしょく しょうしょう しょう しょうしょう しょう しょうしょう しょう しゅう しょうしょう しょうしょう しょうしょう しょう しょうしょう しょう	ンを行う。 また、学にが見また、学にを出ている。 また、学にを出ている。 をPRできる。 をPRできる。 をPRできる。 をPRできる。 マーを作成で マーなが、ポスター	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表できる 一発表できる	
主意点 授 業 計1 デガ	画 3rdQ 4thQ	に、学まする 原 の で	添削を行いて、 を行いした論な。 だは、 を行いした。 では、 を行いした。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	フよい論文を記述を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表	世る。また、自己を学期開始時にテーマはないため、積極的な取りがはない。また、自己を学りない。では、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な取りがある。との、積極的な関係である。との、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	でで、「大きない」では、「大きない」では、「大きない」で、「ない」で、「大きない」で、「ない)で、「ない、「ない)で、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	プロとで 一達 把 マ 、 10.5 クの目目にでしていていますを を と てがでいる。 標 で 決 考いがのブレレる るるいるいたた たく てきずるる 標 で 決 考いがのブレレる るるいるいたたた	シ ま 定 文文で書ス て て て め め け け に のる が 月 に か と 、 、 のののら ら のる が り に で ら ら ススス よ よ で の ののののののののののののののののののののののののののの	ンを行う。 また、	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表ができる	
主意点 授 業 計1	画 3rdQ 4thQ	に、学まする 原 の で	添加	フよい論文を記されていた。 大課題に解するため、 大課題にいた。 大課題にいた。 大課題にいた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学をしていた。 大学では、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	世る。また、自己を学りはないため、積極的な取りがは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	でででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きででは、「大きでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、「からでは、いきでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、「からでは、」」、「からでは、」」、「からでは、「からいいは、」は、「からでは、」」、「からいは、」は、「からいは、「からいいは、」は、「からいは、「からいは、」」、「からいは、」」、「からいいは、」」、「からいは、いらいは、「からいは、」は、「からいは、いんないは、いいは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないは、いんないいいは、いんないは、いんないいいいは、いんないいは、いんないいは、いんないいは、いんないは、いんないは、いんないいんないは、いんないは、いんないいんないいいんない	プロとで 一達 把 マ 、 10.5 クの目目にでしていていますを を と てがでいる。 標 で 決 考いがのブレレる るるいるいたた たく てきずるる 標 で 決 考いがのブレレる るるいるいたたた	シ ま 定 文文で書ス て て て め め け け に のる が 月 に か と 、 、 のののら ら のる が り に で ら ら ススス よ よ で の ののののののののののののののののののののののののののの	ンを行う。 また、学に必要 す方を把握で、 を把握し、、 理を記述する。 を含ったでできる。 マーを作成スター マーをポースター コー コースター コー コースター コースター コー コー コー コー コー コー コー コー コー コー コー コー コー	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表ができる	
主意点	画 3rdQ 4thQ	に、学まする 原 の で	添加	フよい語文を記述を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表	せる。また、自己を学りはない。また、自己を学りないため、積極的な取りがは、しまり、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	でででは、「大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	プロとで 一達 把 マ 、	シ ま さ 文文で書入てて て て めめら ら で 耐	ンを行う。 また、学に必要 す方を把握で、 を記述する。 を含ったできる。 シアRできる。 シアRできる。 シアアでは、プログラーを作成で、 ラーなポスター、 ラーなポスター、 ラーなポスター、 ラーなポスター、 ラーなポスター、 ラーなパスター、 ラーなのから、 ラーなのから、 ラーなのから、 ラーなのから、 ラーなり、 ラーなのから、 ラーなのを りを、 ラーなのを りを、 りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを りを	Pには論文執 要な自己を ルールを守っ ことができる 一発表できる 一発表できる	

				T	Т
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な 情報を収集できる。	3
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わる ように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口 頭発表することができる。	3
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3
		工学実験技 術(各種測定	工学実験技術(各種測定	実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3
		方法、デー 夕処理、考	方法、データ処理、考	実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実 践できる。	3
		察方法)	察方法)	実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権な どの法律について説明できる。	3
		(知的財産、	技術者倫理 (知的財産、	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3
		持続可能性	法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3
	工学基礎	び技術史		技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然 資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでい くことの重要性を認識している。	3
		情報リテラ シー	情報リテラ シー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3
			データ そう 第2 で	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる 寛容さが必要であることを認識している。	3
		グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解		様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が 果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。	3
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。 日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させ	3
				ることができる。 円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相	3
			汎用的技能	づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。 他者の意見を聞き合意形成することができる。	3
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3
	汎用的技能			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実 践できる。	3
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	3
		汎用的技能		収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情 報を選択できる。	3
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3
分野横断的 能力				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。	3
1,10/2				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3
				複数の情報を整理・構造化できる。	3
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。	3
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・ 合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等 の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3
				事実をもとに論理や考察を展開できる。 結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現でき	3
1 1				枯調への週柱の調理性を言葉、又早、凶衣などを用いて衣切でき る。	3

	性(人間力) 総合的な学習経験と創	列 態度・志向) 性		チームで協調・共同者の意見を尊重する。	同するために自身の るためのコミュニク)感情をコントロー ーションをとるこ	ルし、他 とができ	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内 での相談が必要であることを知っている					
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。					
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどの ように活用・応用されるかを説明できる。				3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 能力」の必要性を認識している。					
				工学的な課題を論理	2的・合理的な方法	で明確化できる。		2	
				公衆の健康、安全、 から課題解決のため	文化、社会、環境 りに配慮すべきこと	への影響などの多 を認識している。	様な観点	2	
		総合的な学	造的思考力	要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。					
		習経験と創造的思考力		課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。					
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。					
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持 続可能性等に配慮して解決策を提案できる。					
評価割合									
	論文提		課題	発表				î	合計
総合評価割合	à 40	3	0	30	0	0	0	:	100
基礎的能力	40	3	0	30	0	0	0	100	
専門的能力 0		0		0	0	0	0	()
分野横断的能	力 0	0		0	0	0	0	0	